

# 埼玉退教 だより

第 4 号

発行日 2024/11/20

発行者 石川博 編集責任者 山田正美

発行元 330-0062 さいたま市浦和区

仲町 3-13-10 ヤギシタビル 4F

e-mail:yamadamasami015@gmail.com

## 大見出しの陰で

石川 博（会長）

最近の新聞では「自公大敗 過半数割れ」(10/28 産経)、「被団協 ノーベル平和賞」(10/12 東京)、「石破内閣 発足」(10/2 朝日)、「袴田巖さん 再審無罪」(9/27 東京)、「大谷 51-51」(9/21 スポーツ報知)など大見出しで報じられました。読者の関心が高いとか社会的影響があると思われる記事ほど活字が大きくなるようです。

一方、世の中で盛り上がっている話題と並んで定点観測の様に「平和」とか「人権」等に関する出来事を継続的に注視することも大切です。日退教の組織活動交流集会(10/11)で「『育鵬社』教科書採択反対から始まった教科書問題の取り組み」について香川県退協の報告がありました。2011年に県内の中学校に「育鵬社」の歴史・公民教科書が採択されたことがきっかけとなり「平和憲法を生かす香川県民の会」等の組織と共に活動してきたとのことです。2019年に「育鵬社」を排除した後も、毎年4月頃から平和憲法を生かした教科書採択を求める県民署名活動を展開して7月に県教委へ提出しています。

私は今年の中学校教科書展示会には2回出かけました。「あぶない教科書」という資料で指摘された部分を実際の教科書を開いて確認しました。「育鵬社」もありましたが、新たに「令和書籍」の歴史教科書がありました。天皇系図や神話、明治以降の戦争の記述など聞いてはいましたが「これが教科書?!」という印象でした。私が退職した20年前には考えられなかった教科書です。これらが教科書検定をパスしたものであることを考えると恐ろしい時代になっていると思います。因みに、来年4月に中学生に教科書が行き渡った後、一般に市販されるとのことです。

第33回埼玉退教定期総会が10月18日に開催されました。30名余りの会員と日退教から竹田会長、山口事務局次長をお迎えして5年ぶりの対面での総会でした。自治労のご厚意により県労評会館(3F)を使わせていただきました。議事では、具体的な活動方針として「(8) 狭山事件再審闘争を支援する。」を追加する修正案が比企支部から提出され、可決されました。他の議案については原案どおり可決されました。

## 2024年度 会費納入ありがとうございました

9月発行の「埼玉退教だより」にて2024年分の会費を納入につき、おねがいたところ、多くの会員の方から納入いただきました。ありがとうございました。会費については今回の定期総会で提案・決定した内容にしたがい、退教活動に活用させていただきます。なおまだ納入のお済みでない方は、会費納入用の「払込取扱票」により郵便局にて払込みいただくよう、よろしく願います。

# 第33回埼玉退教定期総会総括

事務局長 立野 隆一

2019年度を最後に、対面式での総会は5年ぶりの開催となりました。会場の県労評会館会議室は、ほぼ満席の盛況でした。人と人が会する必要性を再認識された方が多くいらしたのではと推測されます。

会議は、石川会長の挨拶、日退教会長の竹田邦明氏、同事務局次長の山口正人氏挨拶に続いて、埼玉教組・高教組からもエールのメッセージをいただき、議事に入りました。

総括の観点を以下に示します。

- (1) 参加人数…36人ほぼ満席。各支部等での声掛けもあり、盛況だった。
- (2) 開催時期・時間…議案書作成業務の都合で6月開催を9月にずらしたが、特に問題はなかった。予定の2時間を若干超えたが、活動報告・修正案提出や日退教会長と事務局次長の挨拶・情報提供などがあり、充実した内容となった。しかし、13時開会は、会場準備・昼食の関係で無理があった。14時開会などが望ましい。
- (3) 意見・修正案…第3号議案活動方針の具体的な活動方針に「物価高騰と年金生活者の窮状で折角、情勢が書かれているのに、方針には国民の負担を減らす、というのが見

当たりません」、「(3)については私も反原発の考えですが、庶民にできる限られた事では、EV（電気自動車など）を購入したり所有しないことです。…中略…EVと原発は両輪の輪です」というご意見をメールで頂戴した。前者については、当然対応すべき課題と判断しつつも、スローガンに掲げるにとどめ、具体的方針に掲げることはせず、各自選挙などで行動することを確認した。後者については、関係諸団体とのより一層の協力、運動への積極参加を行うことを確認した。今後、課題はあるが、病気等やむを得ない理由のある方がメール等での参加を認めていく方向で議論していく必要がある。

具体的方針の追加として、「狭山事件の再審請求を支援する」が提出され、賛成多数で可決した。

- (4) 会員の減少と拡大について意見交換があった。個人的な声掛けに加え、教組・高教組との連携により、退職組合員の加入勧誘を積極化していくことが確認された。
- (5) 次回は「東松山市で開催を」と要望が出されたので、常任委員会で検討した結果、実現する方向で前向きに取り組もう、という意見が大半だった。

## 2025年度(前期)行事予定

※年度の区切りとして、本会では新年度を1/1とし、会計年度は4/1～3/31です。

※定期総会は10月中下旬に開催予定です

1/20 第1回常任委員会

2月下旬 埼玉退教だより25年度1号発行

3月初旬 全国教研還流集会

4月初旬 第2回常任委員会

5月初旬 憲法大集会

5月中旬 埼玉退教だより25年度2号発行

〃 沖縄平和行進

# 「なぜ止められなかった？」と聞かれたら

## 9・16 さよなら原発全国集会に参加して

高橋 衛（児玉支部）

今年の夏は暑い日が続いた。電気代もかかり大変だったが、毎日クーラーのかかった部屋にいた。9月になっても連日猛暑。16日の集会はどうなることやらと心配していた。当日起きたら天候は久しぶりの曇り空。デモ行進もこれなら大丈夫だと出かけた。気候危機の深刻化で、日本の電力問題はますます重要だ。集会前の午前中の時間に気候危機と原発という若い人たちのミニトークがあった。気候危機のフェーズが変わりつつある今、各国の化石燃料と原発使用の状況についての話は参考になった。集会は司会の畠山澄子さんの明るい声でスタート。呼びかけ人のひとりである佐高信さんのあいさつでは、原発事故当初の東電の社員家族と地域住民への対応の違いについて力強い言葉で批判されていた。女川原発再稼働を許さない活動をしている方々からの報告は危機迫るものであり、半島原発のリスクや避難計画の見直しもされていないことへの批判。また、能登地震でわかったように半島での避難は大変なことが予想される。なんとしてでも東北電力による女川原発再稼働を阻止したい思いが伝わった。また東海第二原発の再稼働阻止を訴えているグループの報告

も粘り強く取り組んでいるものであった。3.11子ども甲状腺がん支援ネットワークの方からは、甲状腺がん裁判では原告の子供たちのおかれている厳しい状況や裁判についての報告がされた。主催者挨拶で落合恵子さんがあきらめないこと、正義は打ち勝つことである



落合恵子さん「あきらめないこと、正義は打ち勝つ」と力強い挨拶

こと言っていた。今回は将来ある子供たちのために原発はいらないという思いがよく伝わった集会であった。新原発を造ろうなどという動きには絶対に反対しなければならないし、造らせてはいけないという思いである。

先週から始まった総裁選に立候補した自民党の人たちは、これからの電力問題を避けているのかのようである。原発廃止から再生エネルギーの推進へ、流れを急加速させてほしいと願うばかりである。しかし、その言葉はどの立候補者からもなかった。10年後、20年後の未来の日本人がどうしてあの原発事故後に原発を止めなかったのと聞かれたら、その後の政権が悪かっただけではすまない。今を生きるひとりひとりの責任であると強く思う。

最後に今回は埼玉教組の皆さんと一緒に表参道から外苑前までゆっくり行進できた。半年後の3.16にまた参加したいと思う。



子ども甲状腺がん裁判では原告は厳しい状況に置かれている

## 恒例 囲碁大会開催

# 楽しさと醍醐味 じっくり味わう

立野 隆一

10月4日(金)熊谷中央公民館にて恒例の沖松杯争奪戦が行われました。10時に炭谷実行委員長の挨拶後に熱戦が繰り広げられました。委員長の声掛けの努力により、10名の参加、そのうち久々に参加された方が2名いました。棋力によってA(有段者)とBのグループに分けられますが、対戦は、棋力の差に応じてハンディキャップ(置き碁…あらかじめ下級者が石を置く)方式で、私のような「30年間ずっと初心者」でも参加できる形式です。とはいえ、有段者は品よく、穏やかに威厳に満ちた光を放つ石を打ってきます。王でも金でもない平等なただの石がそう見えるから不思議です。私は連敗を喫しましたが、何とか一勝させてくださる先輩がいらっしゃったので昨年より進歩したような気分で意気揚々でした。

参加者の皆さんのお人柄かもしれませんが、私は囲碁のゲームとしての楽しさと醍醐味を味わうことができたからだと思います。昼食のウナギも美味

でした。熊谷まで行く価値は十分あります。時に笑いあり、唸り声ありでそれぞれに楽しい時間を過ごされていたと思います。あっという間に終了の4時を迎えました。

今後は、参加者を増やし、現役教職員の参加も検討するなど、退教会員相互の交流に加え、現役との交流の場としての大会となるよう取り組んでいきたいところです。

### 大会結果

#### Aグループ

優勝 鈴木 容二さん

準優勝 渡辺 栄三さん

#### Bグループ

優勝 丸山 道雄さん

準優勝 秋山博史さん



笑いあり、唸り声あり、あっという間の4時間。

## 第35回 埼玉教研集会に参加して

### 「現・退一致」に課題も

所用で午後からの分科会の参加となりました。ロビーで若手組合員とあいさつを交わした際、やや興奮気味に「佐藤学さんの講演良かった！」と言葉を投げかけられました。私は聞いていないので何とも返しようがなかったのですが、「探究と共同の学びへのイノベーション」というタイトルからある程度の内容の想像はできたので、「新しい学び、共同学習研究の第一人者だからね」と苦し紛れに返答しました。正直、所用をすっばかしてでも午前の部に参加すべきと反省です。

分科会は「平和教育」に参加しました。驚くことにレポート5本すべてが退教会員です。分科会参加者10人中8人が現場を持っていません。レポートはそれぞれに興味深いものでしたが、現役が平和教育に携わっていない、もしくは興味がない、それとも教研への参加者自体が少ないのか分析不能に陥りました。全体でも退教会員のレポートは11本(全23本)、参加は16名で昨年を上回っています。現退一致のスローガンが最も反映される場としての県教研という認識は、改めざるを得ない現状とみるべきです。現役の執行部と教研について膝を交えた議論が必要と思いました。

立野 隆一

連載

## 世界食い倒れ紀行(3) ベトナム

+呑んだくれ

赤上光司(高校支部)

### 田舎の民泊ツアー

ベトナムに行った時、ホーチミンの地元の旅行社に「田舎の民家に5日間宿泊」と言うのがあって申し込んだ。普通の人々と触れ合いたかった。そこは、本当に田舎だった。家もマバラだし、もちろん店などない。けど、私が泊まった民家は、けっこう広く、民宿風だった。ちょっとかわいい姉妹がいて、この2人が私の世話をしてくれた。店はないけど、朝、市場が立つので、村人はそこで買い物をした。見たことがないものが売ってて面白く、私は毎日、市場に行った。

### ドブネズミを完食

その日、私は、市場で、目を疑った。なんと、ドブネズミを、売っているのだ。しかも生きたまま。どう見ても、ドブネズミそっくり。聞けば、食料にすると言う。私は、すぐさま買った。ネズミは食べたことがない。私はグルメだが、三ツ星に行って喜んでいるだけではない。人が食べるものなら、全て食べてみたいのだ。食べたことのないものを見ると興味シンシンになる。それが、ヘビ、トカゲ、イモムシ、タガメなど、あり得ないものだと、食べずにはおれない。

私は家に帰り、お姉さんに、ネズミを見せた。お姉さんはびっくりするかな？ところが、お姉さんは「ああ、ネズミね」と、当たり前前に受け取り、当たり前前に調理した。その日の私のディナーはネズミ。鶏肉みたいな味で、小さかった。私は、美味しく完食した。

私は、毎日、姉妹といるので、姉妹に好感を持って来た。ある時、妹と裏庭で2人きりになったとき、妹が私に「姉はあなたに好意を持っているみたいよ」と言った。それを聞いた私はいきなり、妹の方に求愛した。私は妹の方が好きだったからだ。ところが妹に拒絶され、私はすぐ諦め

た。もしお姉さんと結婚してれば、こんな寂しい孤独老人にはならなかったかもしれない。

### 生きたままのカブトガニ

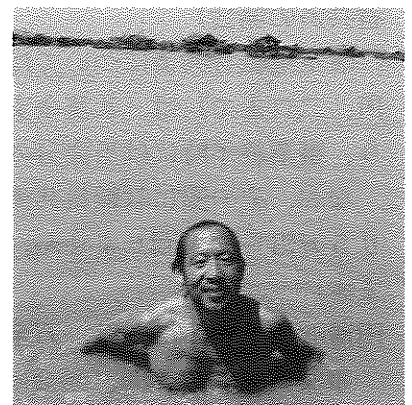
また、ある日、市場に行くと、今度は、カブトガニを売っている。生きてる。日本なら天然記念物、絶対食べられない。私はすぐ買って、また、お姉さんに渡した。お姉さんは今度も驚かなかった。火鉢を持って来て、生きたまま焼けば、食べられると言う。姿焼きか。私は、ついに天然記念物を食べる好機に恵まれたのである。姿焼きをしたカブトガニを食べる瞬間が来た。腹を割って

見ると、中から、ぎゅーりたまごが出てきた。イクラとそっくり。カブトガニのイクラを食べると、硬く

て潰れない。何度か、噛み潰したが、不味い。とても食べられない。身を食べようと、甲羅を漁ったが、全く身がないのである。カブトガニ、甲羅もたまごも、ガチガチに固まっている。でも、この村では売っているのだから、食べるころはあったのかもしれない。

村での5日間が過ぎて、帰る日が来た。全く何も

することがない暇な日々だったが、ベトナムの田舎で過ごし、村人と仲良くなったのは、私の好みであっていた。姉妹とも、笑って別れた。



メコン川で泳ぐ筆者  
川というより泥水であった

## 天然記念物を食べる

## 日本教職員相互共済会の事業終了は 2020年代の終わりごろになる予定です。

当共済会は、1982年に「退職者共済」を運営する組織として出発しました。以来、お支払いした共済金の総額は204億円を超えています。

一方、共済発足時には想定されていなかった超低金利・ゼロ金利が長期化しており、「お支払いいただいた掛金の運用利息で共済事業を行い、最終的には掛金相当額（基本契約の一時払掛金：以下同様）もお返しする」（改定退職者共済の場合）という当会の事業構造に無理が生じてまいりました。

このような事態を受け、当会は第71回通常総代会（2019年6月27日）において「会員の皆様に掛金相当額をお返しできるタイミングを見極め、その時点で事業を終了する」という基本方針を確認しました。

その後、3度に渡る「早期解約キャンペーン」を行い、経費節減にも努めました結果、事業の終了時期は2020年代の終わりごろになると想定しています。

### 1. 「退職者共済」は教職員共済と当会で分担してお引き受けしています

	教職員共済が管理	相互共済会が管理
改定退職者共済 (1981～1999年度)	死亡見舞金・退会見舞金 喜寿・米寿祝金 (生命特約)	長期療養見舞金 (入院特約)
新退職者共済 (2000～2001年度)	死亡見舞金・退会見舞金 喜寿・米寿祝金 (生命特約)(入院特約)	長期療養見舞金 人間ドック給付

退職者共済は、左の表のとおり教職員共済と当会で分担してお引き受けしています。このうち事業を終了するのは、相互共済会が管理している部分（網掛け部分）になります。

### 2. 事業終了に際しては、お支払いいただいた掛金相当額を返戻金としてお支払いします（改定退職者共済の場合）

改定退職者共済については、加入時にお支払いいただいた基本契約の一時払掛金（一口5万円、二口まで）は、共済金支払いに必要な責任積立金として教職員共済と分担して管理されており、事業終了時には当会分の全額をお返しします。

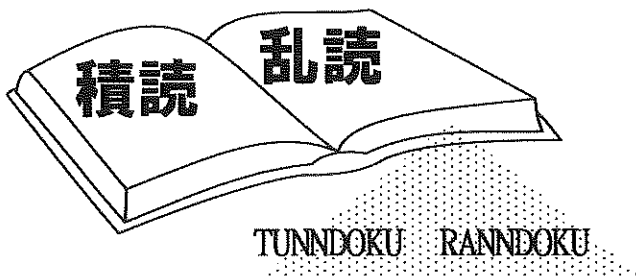
なお、その際に教職員共済分を同時解約された場合、お支払いする返戻金の総額は「一口あたり5万円」を下回りません。（長期療養見舞金を2度お支払いした方については下回る場合があります）

### 3. 円滑な事業終了に向け、万全の準備を進めてまいります

事業終了までの間、当会は従来通りの共済事業を継続します。共済事由が発生した場合、遠慮なくご請求ください。

今後、円滑な事業終了に向けて、混乱を招くことのないよう万全の準備を進めてまいります。

お問い合わせ	日本教職員相互共済会フリーダイヤル	0120-971-354
	教職員共済生活協同組合フリーダイヤル	0120-568-372



峯 三男 (高校支部)

清冽な詩人

## 「茨木のり子詩集」(岩波文庫)を読む

### 1 初めに

年をとる それは青春を 歳月の中で組織することだ  
ポール・エリュアール

「今までに読んできた詩の中で、一番好きな詩を一篇挙げるとしたら、なんになりますか」と質問されエリュアールの詩が浮かんでくると茨木のり子は答えている

この詩集は、友人の谷川俊太郎が、生前発表された彼女の詩集の中から選んだものである。谷川俊太郎は茨木のり子を評して「あなたはずうっと清く正しく生き続けた 時に私たちを詩で叱咤激励したりもした」と書き、続けて「物足りなさも覚えた」と述べている。

### 2 根府川の家

根府川

東海道の小駅

赤いカンナの咲いている駅

たっぷり栄養のある

大きな花の向こうに

いつまでもまっさおな海がひろがっていた

・・・以下略・・・

今から20年くらい前の夏、この詩に描かれている世界に触れたいと根府川という駅に降り立ったことがある。小さな駅のホームには「赤いカンナ」ではなく「オレンジ色のカンナ」が咲いており、目の前には広く大きな海があった。人気のない小さな木造駅舎を出るとみかん畑が広がっていた。小高い丘に登るとキラキラ輝く相模灘や民家が蜜柑の木に囲まれて点在していた。きりりとした彼女の青春につい

て考えた。この「根府川の海」に連なる作品として有名な「わたしが一番きれいだったとき」や「どこかに美しい村はないか」と始まる「六月」などがある。このふたつの作品は教科書にも採用され、多くの人の眼にふれていると思う。



### 3 リゅうれえんれんの物語

1965年に出版された「鎮魂歌」という詩集に収められているこの詩をいったいなんて表現したらいいのだろうか。こんな長い長い叙事詩を私は今まで読んだことはないし、おそらく今後もないと思う。長くて読み通すのは大変であるが最後まで読んでしまおう、いや読まねばならない詩なのだと思う。

1944年に中国で日本軍に捕らえられその後北海道の炭坑まで強制連行される。非人道的な労働に従事させられ、あまりの苦しさつらさから 脱走し 13年間北海道の山中を逃げ続けた劉連仁という実在した人の物語である。

戦中優等生であり軍国少女でもあった茨木のり子が敗戦の後、戦後民主主義の精神をまぶしいものとして受けとめ、生涯その姿勢を持ち続けた彼女にとって戦争責任、戦後責任というものは避けて通ることが出来なかったのではないかと。

### 4 寄りかからず

たしか朝日新聞の「天声人語」を読み、生まれて初めて新刊の詩集を買ったのがこの「寄りかからず」であった。当時、「日の丸」「君が代」の強制など、徐々に職場の管理強化が進み、教職員もしだいにものを言わなくなっていた。

なぜ国歌など

ものものしくうたう必要がありましよう

直立不動でうたわなければならないか

聞かなければならないか

私は立たない 座っています

この「鄙ぶりの唄」にどれだけ勇気づけられ、励まされたことか。ここにも私と同じ考えの人がいる。

「もはや できあいの思想には寄りかかりたくない」と始まる「寄りかからず」という詩の「ひとりで立つ」という精神に強くひきつけられた私がい

## 5 歳月

茨木のり子は49歳の時、夫を亡くしその後30年ひとりで生きた。この詩集は夫・三浦安信への思いを綴った詩が集められている。彼女の死後、甥の手により出版されている。この詩集の選者である谷

川俊太郎は生前「物足りなさも覚えた」と書いていたが「歳月」を「一番好きなあなたの愛の詩集」と述べている。

「真実を見きわめるのに 二十五年という歳月は短かったでしょうか・・・たった一日っきりの稲妻のような真実を 抱きしめて生き抜いている人もいますもの」

凜として生き抜いた詩人、それが茨木のり子だとこの詩集を読み、あらためて思う

## 新常任委員紹介

### 武井誠さん



新しく常任委員となった武井さんからの自己紹介です

○1954年11月2日生まれ（70歳）

○20～30歳代は、埼玉県西部、鶴ヶ島市内の中学校社会科教員として勤務。▲40歳代には、埼玉教職員組合の専従を7年、そのうち執行委員長を4年。▲50歳代からは、社民党公認坂戸市議会議員として4期16年▲2024年4月、市議会議員選挙で小川みなこ議員（42歳）にバトンタッチ。

○現在、社民党坂戸総支部代表。地域の自治会副会長、老人クラブ会長。

○これからの目標「お元気ですね。なにか健康にいいことでも?」「はい、適度な運動を。」「ほう、どんな?」「平和運動、人権運動、あと労働運動とか。」

○趣味は、ギターの弾き語り。童謡・唱歌、演歌、フォークなどジャンルは問いません。イベント・宴会の盛り上げ係としてお声かけいただければ幸いです。よろしくお願い致します。

「合格者の7割が辞退、二次募集へ」。どこかの学校のことではない。教員採用試験の話である。今年の高知県の小学校教員採用試験。採用予定130人の倍以上の280名に合格通知を出したのに、その7割にあたる204人が辞退してしまい、追加合格を入れても大幅な定員割れをおこしたので、二次募集を余儀なくされた。同様の事態は各県に広がっている▲政府自民党は何十年も教員バッシングを繰り返してきた。その結果がこれだ。ザマーミロ、と思う反面、寂しいものがある。おめでたいかもしれないが、教員はなお、魅力ある仕事だと思うのだ。▲1979年の夏、自分が埼玉の教員採用試験を受けた頃を思い出す。この年から東京、埼玉、千葉、神奈川は試験日が同じになり複数受験が不可



能になった。倍率も高く何度も試験を受け突破してきた初任者も多かった。就職氷河期の頃は一科目で採用が2～3人、50倍、60倍の倍率でも受験に挑む若者たちがいた▲定額働かせホーダイは昔も今も同じ。決定的な違いは、かつては専門職として教員の裁量権が尊重されていたということだ。自主研修が保障され、職員会議は決議機関であり、校内人事は委員会で決めた。主幹教諭も企画委員会も存在せず、年次研の出欠はテキストだった▲教員志望者の減少は文科省も危機感を持っている。しかし給料を上げれば解決するだろうか。教員の裁量権を認め、働き方の自由度を上げなければ教員志望者は戻っては来ないと思う（Y）